



スティグマの本質に迫る 国際エイズ学会 (IAS) 年次書簡2019

<https://www.iasociety.org/Who-we-are/About-the-IAS/Annual-Letter-2019>

『HIVをめぐる根強いスティグマは人々に大きな苦難をもたらし、グローバルコミュニティとしての私たちの力を奪うことにもなります』

HIVの流行は初期段階で二つの流行を引き起こしました。一つはウイルスそのものの流行、そしてもう一つは恐怖と憎悪、非難からなる流行です。30年を経てもなお、それが残っていることは明らかです。

HIVは差別しません；差別するのは人です。

エイズの出現以来、新規HIV感染とエイズ関連の死亡を減らすという点で、私たちは大きな成果を上げてきました。しかし、スティグマと差別と社会的排除の流行に関しては、闘いの成果は上がっておらず、そのことがHIVの診断、およびHIV陽性者の治療とケアの普及を妨げています。HIVをめぐる根強いスティグマは人々に大きな苦難をもたらし、グローバルコミュニティとしての私たちの力を奪うことにもなります。

スティグマと差別を比べた時に、スティグマは二次的なものとして捉えられがちです。

国際機関からはスティグマへの対応について繰り返しリップサービスがなされてきたものの、様々な状況にあわせ効果的かつ大規模にスティグマと対応していくだけの資金が確保されているわけではありません。たとえば、HIVの予防と治療をめぐる課題の中で、スティグマと差別は常に成功を妨げる障壁とされてきました。それでも、資金配分に際しては、しっかりしたエビデンスに基づき、スティグマと闘うための効果的な政策やプログラムを重要な柱として位置付けることはなかったのです。

HIV流行が始まったころから、スティグマと差別は混同して受け止められる傾向がありました。しかし、この両者は互いに関係してはいるものの、同じものではありません。スティグマは特定の集団を取り上げ、その集団に属する人すべての価値を着実に引き下げていく社会的現象です。

スティグマは様々なかたちで現れます。最も目立つのは、外部要因がスティグマを生み出し、強化するケースです。こうした要因には次のようなものが含まれます：ジェンダー、人種、セクシャリティ、経済的地位などにより以前からあった偏見；HIVの見えない恐怖。スティグマの影響は個人の中で強まり、内在化することもあります：個人的に恥と感じたり、汚いと思ったり、恐れったりし、社会的に引きこもって孤立していくのです。

しかし、過去30年の流行を振り返ってみると、希望はあります：HIVによって復元力や精神力、決断力などがもたらされることもあるからです。それでは私たちHIVコミュニティ—専門的もしくは個人的にHIVとかわかって生きている人たち、HIV陽性者、HIVに対し脆弱性がある人たち、HIVに影響を受けている誰かを知っている人たち—はどうすれば、レトリックを超え、スティグマの本質に迫る行動を起こすことができるのでしょうか。

『差別はスティグマの結果として起こる行為です』

なにを指すのか

スティグマは多面的です。HIVそのものに伴うスティグマは、薬物使用者やセックスワーク、同性間の

セックス、先住民、トランスジェンダーの人たち、貧困層、投獄されている人、移住者など他の人たちがや行為に対する態度および価値判断と一緒にしていることがしばしばあります。

差別はスティグマの結果として起こる行為です。

2014～2017年のHIV陽性者スティグマ・インデックスを使った調査では、13カ国中10カ国でHIV陽性者の失業率は30%以上になっています [1]。東チモール、フィジー、ギリシャ、ホンジュラスでは若いHIV陽性者の失業率が50%を超えています [1]。2011～2016年に調査を行った国々では、HIV陽性者の10%以上が、HIVに感染しているために暴力被害を受けたと報告しています；16カ国では10%が言葉による嫌がらせで傷つけられています [2]。2012～2017年に調査対象となったHIV陽性者のほぼ5人に1人がHIVに感染しているという理由で医療ケアを拒否されました [3]。

自己申告に基づく調査なので、全体像の把握にはさらに調べる必要があります。まだ、大規模な調査ではなく、数は限られているとはいえ、HIV陽性者に対するこうしたスティグマや差別的な行為の報告からは、スティグマや恐怖によってこの人たちが必要なサービスや支援を受けられなくなっていることが分かります。

すべてのかたちのスティグマがHIV対策に重大な影響を与えています。しかし、保健医療の現場におけるスティグマほど大きなものはないでしょう。だからこそ、保健医療の現場で成果をあげている事例を広め、スティグマをなくすよう保健医療従事者の研修を体系的に進めることが大切なのです。

HIV関連の差別解消に成功をおさめた事例もあります。UNAIDSに対する各国の報告書によると、HIV陽性者や排除されがちな人口集団に対する人権侵害の報告を受け、対応するメカニズムがある国は70カ国を超えています。ただし、こうしたメカニズムが必ずしも、十分に機能しているとはいえない状態でもあります [4]。2011年から2015年の間に、22カ国・地域がHIV関連の入国、滞在、居住規制を撤廃するか、そのような規制がないことを明らかにしています [5]。ここ数年では、パキスタンがトランスピーブルに対する保護を法的に定め [6]、インド最高裁は同性間の性的な関係を禁止する法律を無効にしました [7]。アイルランドでは公認の薬物使用施設の認可と規制を可能にする法律が可決されています [8]。そして南アフリカではセックスワークを非犯罪化する動きが出ています [9]。

法律を人権や公衆衛生の原則に則ったものにしていく努力は成果を上げているものの、それでもスティグマは依然、HIV対策を妨げる最大の障壁として残っています。

『HIV関連のスティグマ事例で目の当たりにしている現実、もう少し穏やかなかたちであるとはいえ人権尊重がうわべだけのものに後退しつつある世界の姿を映し出すものでもあります』

人権からの撤退

差別や具体的なスティグマの表明に対処する努力は強められているものの、スティグマという感情を具現化させる潜在的な価値観や態度は残っています。世界的には2009～2016年に集団調査に応じた人の3分の1は、HIV陽性の店員からは野菜を買わないと答えています [10]。

こうした状態は、世界各地のゲイ男性など男性とセックスをする男性、注射薬物使用者、セックスワーカー、トランスジェンダーのコミュニティといったキーポピュレーションにとってはより深刻になっています。インドネシアでは最近、ゲイ男性の大量逮捕がありました [11]。タンザニアでは、キーポピュレーション向けのサービス施設が閉鎖を強いられています [12]。トランスピーブルに対する暴力の多発が続いていることは世界の良心にとっての汚点です [13]。注射薬物使用者のHIV感染リスクは、一般人口より22倍も高くなっています [14]。実際にフィリピンでは2016年から政府が薬物使用者への取り締まりを強化した結果、1万2000人以上が死亡したと報告されています [15]。世界の195カ国のうち、同性婚を認めている国は24カ国しかありません [16]。ひと言でいうと、HIV感染に対し脆弱性が高い人たちがHIV陽性者をすべて犯罪者として扱うような誤った認識に基づく法律が、投獄、感染、そしてスティグマを補強する偏見という危険なサイクルを温存させていることがあまりにも多いのです。

スティグマの複合的な影響を緩和しなければ途方もない失敗をもたらします。

スティグマは私たちが効果的にHIVに対応する力を制限しています。そのエビデンスは明白です：スティグマや差別の対象にされることを恐れている人はHIV検査に対し消極的になり、治療も継続しにくくなります [17]。スティグマにより個人のサービス利用が妨げられることが、流行の拡大を促します。新規HIV感染の3分の1は15～24歳の若者で占められており、西部・中部アフリカではキーポピュレーション

ンの人たちとその性パートナーが新規HIV感染の約40%を占めています [18]。UNAIDSの90-90-90ターゲットに向けた成果は2020年の締め切りに間に合うペースにはなっていません [19]。スティグマに立ち向かい、サービス利用を躊躇させるような社会的雰囲気解消しない限りゴールに到達できないことがますます明らかになっています。

HIV陽性者やHIV感染に脆弱な人たちへの迫害は、すべての人が求めるべき価値観に反しています。持続可能な開発目標は、2030年までに世界の繁栄と平等、そして可能な限り健康な生活を実現するうえで、誰も置き去りにしてはできないことを強調しています。しかし、いまなお世界で最も重要な保健、開発課題であるHIVについて、実は最も脆弱性の高い何百万という人が置き去りにされているのです。これからHIV対策にとって、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現に向けた世界の動きが極めて重要な意味を持つ理由の一つはこの点にあります。

誰もが保健医療を受けられるようにすれば、キーポピュレーションのメンバーを含め、もっと多くの方が保健医療サービスを利用できるようになるのです。ただし、保健医療サービスは利用可能だけれど、スティグマがそのアクセスを妨げてしまうようでは、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジは実現できません。

HIV関連のスティグマ事例が示しているものは、もう少し穏やかなかたちをとっていますが、人権尊重がうわべだけのものとして後退しつつある現在の世界の姿にもあらわれています。12年連続で低下している主要民主化指標の一つは、民主化の動きが過去数十年で最も深刻な危機に直面していると伝えています [20]。抑圧や外国人排斥、権威主義が広がり、市民社会の行動や自由で公正な選挙、法の支配は衰退して、最も弱い立場の人たちをより大きなリスクに追い込んでいるのです。

『しかし、スティグマという社会的現象と闘うには、基本的に社会の問題に対応し、本来は個人の問題にも対応しうる戦略が必要です』

社会規範を変える

HIVコミュニティは、HIVの文脈の中で人権をきちんと位置付ける法律を制定、施行すること、あるいはそうになっていない法律を廃止することにより、ある程度まで差別の予防に成功できたかもしれません。しかし、スティグマという社会的現象と闘うには、基本的に社会の問題に対応し、本来は個人の問題にも対応しうる戦略が必要です。

スティグマの悪影響を減らすには、さまざまな戦略が有効であることが分かっています。たとえば、ピアサポートや若者主導の組織、HIV陽性者のネットワーク、キーポピュレーションの組織に対する効果的な資金提供と支援によって、スティグマから最も大きな影響を受けている人々を助けることができます。同じように、内なるスティグマを克服し、自らの存在に信頼と自信を取り戻せるように個人を支援することは、長期にわたる回復を助け、スティグマの負の影響を跳ね返すこととなります。

HIV対策史の初期段階から、孤立した人たちが社会とのつながりを取り戻すうえで、サポートグループやその他の介入策が極めて効果的であることが分かっています。自尊心を高めること、自らに強い自信を持てるようにすること、コミュニティに所属しているという意識を通して社会資本を蓄積していくこと、健康的な選択を行うための情報とスキルを伝えることなどが、そうした介入策です。

また、HIVに限らず社会正義にかかわる幅広い課題からも、社会的な資源を動員して求心力のあるコミュニティを形成し、コミュニティに配慮したサービスを提供できるようにする戦略の大切さも分かっています。コミュニティのニーズと資源で組み立てられるDifferentiated（分化型）サービス提供は、医療施設にみられるスティグマと差別を回避できる可能性があるだけでなく、コミュニティを力付け、活性化させることにもなります。

すでに効果が証明されているこうした戦略を一定の規模で展開していくには、新たな投資が緊急に必要です。こうした戦略はこれまでのところ、スティグマがもたらす有害な影響の緩和を目指す程度にとどまっています。スティグマとの闘いそのものにレーザーのように焦点を当ててはなりません。

HIVへの対応が成果をあげるには、スティグマを取り除くことに挑み、そのために意識を変えていく必要があるのです。

価値観を押し付け、排除やスケープゴートを求める気分が広がっているところでは、私たちは寛容と思いやりと連帯の気持ちをもって行動するよう人々を説得しなければなりません。

HIVに関わるスティグマの根絶というゴールは達成困難に見えますが、実は他の社会規範に関しては、同じように困難と見えながら変革に成功した例もあります。たとえば、健康的な食生活を目指す運動では、肥満の人たちを非難したり、貶めたりすることなく前向きなメッセージが行動と社会規範を変えていくにはどうしたらいいかが示されています。がんと診断された人が直感的にそれを恥ずかしいと感じ、秘密にしていたのは、それほど遠い昔のことではありません。診断と治療のサービスが充実し、現在ではがんと診断されても、恥ずかしいと感じずに受け止められるようになっています。

私たちもそれぞれの社会、そして世界全体で、望ましい変化のモデルになりましょう。

『この新たなエビデンスは確実にHIVスティグマの中心にある恐怖を削ぎ落していくことができます』

社会の意識を変えていく

HIVコミュニティは流行の初めからスティグマに実際に直面してきました。私たちのコミュニティは、エイズが世界的な流行などではなく、特定の集団にのみ関わる問題だと誤って認識されていた初期段階から、社会的な意識変革のリーダーだったのです。HIVに対応するうえで効果的だと信じていた自らの判断や方法に疑問を呈し、再調整をはかることもしばしばありました。

ウイルス量の抑制を果たしたHIV陽性者から他の人にウイルスが感染することはないという科学的なエビデンスがはっきりと示された今こそ、社会的な認識を変えるために緊急の行動を取る絶好の機会です [21]。

公平なグローバルヘルスの実現を目指す予防アクセスキャンペーンは、Undetectable = Untransmittable (U=U、検出限界値未満なら感染しない) キャンペーンを展開しています。抗レトロウイルス治療によりウイルス量が検出限界値未満の状態を達成し、維持しているHIV陽性者からは、性行為で他の人にHIVが感染することはないということを表しています。U=Uの力強い運動は、HIVコミュニティ内部やグローバルヘルス分野では広く知られているものの、一般的にはまだ、常識となっておりません。いまこそ変革の時です。この新たなエビデンスは確実にHIVスティグマの中心にある恐怖を削ぎ落していくことができます。

『私たちは困難な対話を開始し、スティグマを生み出す事例を目撃したら行動を取らなければなりません。そして私たち自身がより包摂的な倫理基準を保てるよう自らを高めていく必要があります』

具体的な課題

HIVスティグマを最小限に抑えようとするだけでなく、スティグマを根源からなくそうとするなら、飛びつきやすいスローガンを超えるものがが必要です。社会科学の成果とコミュニティ活動の技術を活かし、HIV陽性者やHIVに影響を受けている人たちに対する社会の認識と態度を変えていくのです。スティグマとは何かを理解して取り組み、必要な政治的対応を積み重ねていかなければなりません。

私たちは困難な対話を開始し、スティグマを生み出す事例を目撃したら行動を取り、私たち自身がより包摂的な倫理基準を保てるよう自らを高めていく必要があります。そして、約束したことは、責任をもって誠実に果たしていくことが必要です。HIVスティグマを助長し、HIVのさらなる拡大に手を貸すような国に対しては一同僚、家族、友人に対してもそのことをはっきりと指摘し、直接、立ち向かわなければなりません。

スティグマがもたらす負の影響を軽減してHIVへの対応を強化、維持していくために、私たちはグローバルコミュニティの先駆者になることができます。スティグマと社会的排除は世界が抱える数多くの悩ましい問題の中心なのです。私たちHIVコミュニティは、「違う人たち」や「他者」に対し、人としての尊厳を奪うかのように扱おうとする誘惑と闘い、その方法を示すことができます。

HIVをめぐるスティグマが持つ多面性を踏まえれば、HIVコミュニティは他のコミュニティや部門、運動と手を携えていく必要があります。有害な影響を軽減し、スティグマをなくしていくには、私たちすべてが、それぞれの責任を果たさなければなりません。

- ・『あらゆるかたちのHIV関連スティグマ・差別を解消するための世界パートナーシップ』は正しい方向に進むステップとなっており [22]、成功には集団的な行動が必要なことは明らかです。
- ・スティグマを助長する姿勢が成文化されている国では、政府が直ちにそうした法律や政策を撤廃しなければならず、他の国の政府も外交を通してスティグマの根絶をはかる必要があります。
- ・スティグマとの闘いを続けなければならない国々が、成果を上げてきた国の経験から学べるようにするしっかりとしたメカニズムと機会が必要です。
- ・効果的かつ状況に適したスティグマ軽減イニシアティブに必要なエビデンスを得られるよう研究強化に向けた新たな資金の確保が必要です。
- ・グローバルヘルス分野の国際的コミュニティは、スティグマとの闘いをHIV対策の最優先課題に掲げなければなりません。
- ・保健医療従事者はスティグマの発生事例を報告し、自らの働く施設をスティグマ・フリーにしなければなりません。
- ・民間企業はサービスだけでなく、スティグマ根絶の観点からも職場のプログラムを再編し、そうしたプログラムが職場を超え、人びとが生活するコミュニティにも広がるようにすべきです。
- ・HIV陽性者、HIVに影響を受けているコミュニティ、そしてより広範な市民社会は、スティグマとの闘いを擁護し、監視役を務められるよう自覚し、その熱意を持続させなければなりません。

スティグマがある限り「エイズの終わり」は訪れません。最も基本的な人としての価値すら軽視されようとしているかに見えるこの危険に満ちた時期において、HIVコミュニティは世界に異なる道筋を示さなければなりません。

参加しましょう。

#HeartofStigma に加わってください。

私たちは困難な対話を開始し、スティグマを生み出す事例を目撃したら行動を取らなければなりません。そして私たち自身がより包摂的な倫理基準を保てるよう自らを高めていく必要があります。力を合わせればHIV関連のスティグマを助長する言動を変えていくことができるのです。

- ・ #HeartofStigma はメッセージを広げる助けになります。
- ・ スティグマに関するあなたの個人的な経験は #HeartofStigma へ。
- ・ コミュニティの中であなたがスティグマとどう闘っているのかは #HeartofStigma へ。

詳細は年次書簡2019デジタルツールキットをご覧ください。

<https://www.iasociety.org/Who-we-are/About-the-IAS/Annual-Letter-2019/Digital-toolkit>

(注)

[1] GNP+, ILO, HIV Stigma and Discrimination in the World of Work: Findings from the People Living with HIV Stigma Index, 2018,

https://www.ilo.org/wcmsp5/groups/public/---dgreports/---dcomm/documents/publication/wcms_635293.pdf.

[2] GNP+, ILO, 2018.

[3] UNAIDS, Miles to Go, 2018,

http://www.unaids.org/sites/default/files/media_asset/miles-to-go_en.pdf.

[4] UNAIDS, Miles to Go, 2018.

[5] UNAIDS Millennium Development Goal Monitoring Data, 2015.

[6] <https://www.npr.org/sections/thetwoway/2018/05/09/609700652/pakistan-passes-historictransgender-rights-bill>.

[7] <https://www.bbc.com/news/world-asia-india-45429664>.

- [8] European Monitoring Centre for Drugs and Drug Addiction, http://www.emcdda.europa.eu/topics/pods/drugconsumption-rooms_en
- [9] UNAIDS, Miles to Go, 2018.
- [10] UNAIDS, Miles to Go, 2018.
- [11] <https://www.hrw.org/news/2018/10/29/indonesia-freshwave-anti-lgbt-rhetoric-arrests>.
- [12] https://www.washingtonpost.com/world/africa/tanzaniasuspends-us-funded-aids-programs-in-a-new-crackdown-ongays/2016/11/23/ec6ced6e-ab5c-11e6-8f19-21a1c65d2043_story.html?noredirect=on&utm_term=.21a5318bcf99.
- [13] Protection against violence and discrimination based on sexual orientation and gender identity, Report to the United Nations General Assembly, 12 July 2018, http://www.un.org/en/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/73/152.
- [14] UNAIDS, Miles to Go, 2018.
- [15] <https://www.hrw.org/news/2018/01/18/philippinesdutertes-drug-war-claims-12000-lives>.
- [16] <https://abcnews.go.com/GMA/Culture/27-countries-sexmarriage-officially-legal/story?id=56041136>.
- [17] https://en.wikipedia.org/wiki/Men_who_have_sex_with_men_blood_donor_controversy#List_of_countries_with_their_stand_on_MSM_blood_donors.
- [18] UNAIDS, Miles to Go, 2018.
- [19] UNAIDS, Miles to Go, 2018.
- [20] Freedom House, Freedom in the World 2018, <https://freedomhouse.org/report/freedom-world/freedom-world-2018>.
- [21] I-Base, The Evidence Base for U=U (Undetectable = Untransmittable): why negligible risk is zero risk, 2017, <http://ibase.info/htb/32308>.
- [22] GNP+, <https://www.gnpplus.net/assets/GlobalPartnershipCallFinal-1.pdf>.

本仮訳は、2019年2月に公表された国際エイズ学会（IAS）年次書簡2019を仮訳したものです。ご利用にあたっては、原文もご確認ください。

<https://www.iasociety.org/Who-we-are/About-the-IAS/Annual-Letter-2019>

【免責条項】本資料で提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本資料で提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

翻訳協力：公益財団法人エイズ予防財団